

## 初年次教育学会 第13回大会 開催報告

藤田哲也  
法政大学

2020年度の初年次教育学会第13回大会は、沖縄国際大学を会場として2020年9月4日～5日の2日間にわたって開催できるよう、1年以上前から着々と準備を進めて参りました。しかし皆様もご存じのように、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、2020年度は対面での大会開催に替えて、要旨集の発行による大会開催へと変更いたしました。それに伴い、個人会員・機関会員の皆様の研究成果は、大会要旨集に発表原稿を掲載することで、初年次教育学会の年次大会で正式発表したものとして扱うこととなりました。

例年、年度初めの4月から大会での研究発表の受付を開始するのですが、2020年度はその時期に感染拡大が深刻な事態になっており、4月7日には政府により「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」が発出されるに至りました。その時点では、当初予定されていた9月に対面での大会を開催できる可能性はまだ残されていると思われましたし、1年以上前から準備を進めてくださっていた沖縄国際大学の大会準備委員会の皆様のご尽力、そして今大会での研究成果発表の準備を進めてくださっていた会員の皆様のことを思えば、ギリギリまで対面での大会開催の道を模索したいという声も理事からは上がっていましたが、逆に、ギリギリまで準備を進めた上で大会が開催できなくなるという可能性にも目を向けるべきという意見もありました。また、2020年度の少なくとも前期期間中は、全国の大学で授業をオンライン中心で行う必要があり、平素とは比較にならないくらいの業務負担を抱えながらの大会準備は大変に困難を伴うだろうという観点からも、まず沖縄国際大学での対面での大会開催は行わないことに決まりました。すなわち、2020年度の大会は、沖縄国際大学の大会準備委員会の皆様にはご負担をかけないように、理事会に常設の大会運営委員会が責任母体となることとなりました。

次に考えるべきは、2020年度の大会を中止するのか、通常とは異なる形態で開催するのかという点になりますが、大会において研究成果を発表する機会を得ることは、初年次教育学会細則の第4条に「会員の権利」として明記されていることから、単に中止という選択肢はあり得ないということになりました。

では、どのような形態で大会を開催することができるかということ、発表を希望する会員の皆様のご負担および大会運営委員会の力量を考慮しつつ理事会で議論を進めました。この原稿を書いている2021年1月の時点で考えれば、オンライン授業で用いているようなスライド動画を作成することは、それほど難しくは感じないでしょうが、2020年4月の時点ではほとんどの大学教員・職員はそのような経験を持っていないであろうことは想像に難くありませんでした。未経験のスキルを前提とした発表形態にした場合、例年通りの発表の準備を進めていた会員の皆様の中には、未知のスキルが必須となるという理由によって不安を感じ、発表申込を見送る方がいらっしゃるかもしれないと予見できま

したし、少なくとも例年行っている以上の作業負担を強いることは間違いありません。そこで、新たな負担が追加発生しない形で会員の皆様の研究成果発表の権利を保証することを優先することとなりました。

結果として、例年発行している「大会発表要旨集」への要旨原稿掲載をもって、正式な研究発表と見なすということになりました。ちなみに、このような措置は実は初めてではなくて、2018年度に酪農学園大学で開催された第11回大会においても前例がございました。第11回大会は、大会一日目(9月5日)が台風21号の影響により、午前のプログラムが中止となり午後からの開会となりました。台風一過により、二日目(9月6日)は予定通りに実施できるかと思いきや、未明に北海道胆振東部地震が発生したために全面中止となりました。本学会の「台風等自然災害の影響による大会中止の判断基準とガイドライン([http://www.jafye.org/wp-content/uploads/natural-disaster\\_v1.pdf](http://www.jafye.org/wp-content/uploads/natural-disaster_v1.pdf))に従い、このときにも会場で発表できなかった会員の研究発表は、要旨集への発表原稿掲載をもって、正式なものとして認めました。今回の新型コロナの影響による措置も、このガイドラインを適用することで、過去の事例と整合性を保った次第です。

もちろん、学会にとっての年次大会は、会員からの研究成果の発表の場であると同時に、参加するすべての会員にとっての情報収集の場でもあり、より重要なこととして会員間の交流の機会を提供する役割も担っていたことはいまでもありません。例年の大会で開催していた、理事を中心としたワークショップや会員企画によるラウンドテーブルも中止となりました。また、その年々の重要なトレンドを反映したシンポジウムや特別講演といった企画も中止となりました。総会は学会運営にとっては重要なものですが、対面では行わず、やむを得ずメーリングリスト上でご審議いただき、承認を得るという形で行わせていただきました。以上のように、大会要旨集を発行するだけで年次大会開催と見なすという措置は、本当に最低限の権利の保証のみを行っただけのものではありますが、何しろそれ以上の準備に割く時間もマンパワーも大会運営委員会側にはなかったということをご理解いただければ幸いです。

さて、「第13回大会は大会要旨集の誌上開催」と決まったわけですが、このことを告知したところで、どれほどの研究発表申込をしていただけるのか大いに不安を抱えながらの発表申込受付開始となりました。そのような不安をよそに、結果として6部門に27件もの発表申込をしていただき、無事に要旨集を発行し、大会を成立させることができました。大会開催の日付は、当初沖縄国際大学で開催予定だった2020年9月4日のままとしました。例年の大会では、大会要旨集は参加者のみに会場にてお渡ししていたものですが、今回はせっかく申し込んでいただいた研究成果をより多くの会員の皆様に知っていただくために、全会員に冊子としてお届けいたしました。現在では、本学会のHPからPDFでダウンロード可能になっております。

以上が、2020年度の第13回大会が、大会要旨集の誌上開催となった経緯とその結果のご報告になります。上記の通り、学会にとって年次大会は、研究成果発表だけでなく、多くの会員の交流の場でもありますし、それが楽しみで学会会員になっていただいている方も少なくないであろうと確信しています。2021年度についても、新型コロナウイルスの影響は決して楽観できるものではありませんので、9月にオンラインで開催することに決定いたしました。ただし、第14回大会は、できるだけ対面で実施していた過去の大会と

遜色のないように、会員相互の交流の機会も実現できるよう、運営に工夫を凝らしていく次第です。もとより、大会というものは運営側のみの力で成立するものではなく、参加していただく方からのお力添えあってのものだと思っています。コロナ禍のような未曾有の事態においては、なおさらでしょう。是非とも会員の皆様の叡智を結集し、ご協力を賜りながら、充実した大会にしていきたいと思っています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(初年次教育学会第13回大会運営委員長)